

4

2020

三重病院

ニュースレター

news letter vol.248

01 糖尿病患者さんの災害時の備え

02 臨床研究部からのお便り—第23回—

03 通所支援事業のひとコマ
やまばとギャラリー情報コーナー
異動のごあいさつ
医療安全便り vol.1104 5病棟の生活のひとコマ⑦
外来からのお知らせ／外来診察のご案内

糖尿病患者さんの災害時の備え

ご存じの方も多岐にわたりますが、日本は、外国に比べて台風、大雨、大雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などの自然災害が多い国です。ここ最近では、毎年のように大規模災害が起こっており、昨年、台風15号が関東に大きな被害をもたらしたことや2018年の西日本豪雨も記憶に新しいところです。皆さんの地域にも自然災害はいつ襲ってくるかわかりません。今回は、糖尿病患者さんが被災した場合における人体への影響や災害への備えについてお伝えしたいと思います。

●被災時の血糖コントロール ●●●●●●●●●●

災害直後は食事を十分に取れないことや、重労働を強いられる可能性から、低血糖を引き起こしやすくなります。そのため、まずは、低血糖の危険を避けることを考え、被災直後の短期間は血糖値が多少高めでも構わないと考えておきましょう。次に、食事が安定して供給され始める頃になると、高炭水化物・高カロリー食が多くなることや、環境の激変によるストレスで高血糖を引き起こされやすくなります。

このようなことから、糖尿病患者さんは、災害直後とその後にかけて血糖コントロール不良になりやすいということを自覚すると共に、これに対する十分な備えが必要となります。

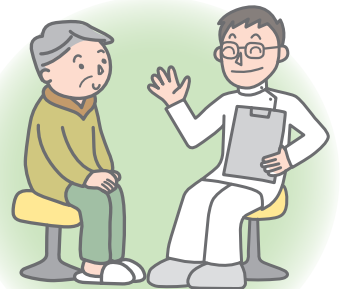
●災害時の糖尿病薬の備えと注意点 ●●●●●●●●●●

血糖コントロールが不良になりやすいということは、普段使っている糖尿病薬や、低血糖対策のためのブドウ糖などを備えておくことは必須です。物流の復旧までにかかる期間を考慮して、日常から十分な量を備えておくといよいでしょう。

特に、インスリン製剤は体中でインスリンを作るこ

とができない人にとっては必要不可欠です。また、インスリン製剤を使う際の注意点としては、災害時であっても、決して注射針やペン型インスリン注入器は他人と共用しないことです。ペン型インスリン注入器も使用後は微量の血液が逆流している可能性があり、そこから感染症を引き起こす恐れがあるからです。

糖尿病治療薬は作用機序の違いから、食事摂取量の違いによって、用量を変更した方がよいものがあります。患者さんの状態によってもこれらは異なりますので、一度、医師に相談しておくといよいでしょう。



●お薬手帳が大活躍！ ●●●●●●●●●●

自分が使用している薬（もちろん糖尿病以外のお薬も）の名前や用法用量を人に伝えることはできますか？災害時には主治医に診察してもらえらるとは限りません。また、電気の復旧が遅れ、医師もカルテを確認できない可能性もあります。そこで役に立つのがお薬手帳です。実際に災害現場では、お薬手帳の活用により、適切な医薬品の供給と医療が提供される事例が多くみられました。

また、糖尿病患者さん向けに、災害時の対応や備えがわかりやすくまとめられているサポートマニュアルなどが、日本糖尿病協会のウェブサイトから誰でも入手できます。一度、目を通しておくといよいでしょう。

（薬剤科 荒木 麻衣穂）

参考文献：公益社団法人 日本糖尿病協会 災害時サポートマニュアル